

はじめに.....

第1章 大阪カジノ・IR計画を止める次の一手.....野村友昭 5

第2章 カジノ・夢洲整備で大阪は破綻する.....森裕之 21

第3章 夢洲カジノ 問われる誘致の是非.....桜田照雄 37

コラム 借金、暴力、そして家庭崩壊……ギャンブル依存症.....矢野宏 50

IRカジノ関連年表..... 56

はじめに

「カジノはいらない」「日本のどこにもいらない」――。

2022年9月30日夜、高層ビルが建ち並ぶ東京・銀座の目抜き通りにシユプレヒコールが響いた。

IRカジノを含む統合型リゾートの区域整備計画を国に申請した大阪府や長崎県、カジノ誘致を撤回させた横浜市と和歌山県から駆け付けた市民たち。この日、朝から永田町には200人が集結。国会前での座り込み、国土交通省への請願、国会議員や融資銀行への要請行動などをこなした。

呼びかけたのは、大阪の市民団体「カジノの是非は府民が決める 住民投票をもとめる会」（現「大阪の未来は府民が決める 夢洲カジノを止める会」）。カジノ誘致の賛否を問う住民投票の実現を求めて署名活動を行い、法定数を大きく超える21万筆を集めた。吉村洋文知事に対し、住民投票実施の条例制定を直接請求したが、2022年7月29日、府議会はわずか半日の審議で条例案を否決した。

府が同年4月に申請した区域整備計画は現在、国の有識者委員会が審査中だ。府・市は当初、同年秋季以降の認定を想定したが、国の結論は越年する公算が高い。大きな理由は、建設予定地の夢洲（大阪市此花区）の地盤への懸念。夢洲は大阪湾に浮かぶ人工島で、土壌汚染や液状化、地盤沈下などの問題が指摘されてきた。有識者委員会はオブザーバーとして、軟弱地盤や津波などの知見を有する3人を選定している。

大阪IRカジノは大阪維新の会が旗振り役。当初は2025年に開催予定の大阪・関西万博の前年に開業する青写真を描いたが、計画では開業時期を2029年秋から冬とした。目玉であるMICE（国際会議、展示会、見本市など）施設の面積は10万㎡から2万㎡に激減、外国の富裕層から国内客に照準を移すなど、当初構想した「世界最高水準のIR」とは一変している。



大阪府・市がIRカジノ誘致を目指す夢洲

今日お集まりの皆さんは「大阪カジノ・IR計画」について長く携わってこられたと思います。私より詳しい方ばかりだと思つのですが、私の立場から、今後、どう闘っていけばいいのかお話したいと思います。

結論から言いますと、来年春の統一地方選挙での争点はカジノです。道府県と政令指定都市の首長と議会議員の選挙が2023年4月9日に投票が予定されており、大阪府知事選、大阪市長選、そして大阪府議選と大阪市議選が行われます。

カジノに賛成するのか反対するのか。カジノをやるのかやらないかを問う選挙にすべきです。

僕は「夢洲での万博もやめるべきだ」と思っています。万博をやめると言っているのではなく、大阪市の人工島・夢洲での万博開催には反対です。夢洲開発にこれ以上、お金をつぎ込むことはやめようと言っているのです。

2022年8月末、大阪市や阪神高速道路が建

設を進めている「淀川左岸線」で、2期区間の開業が予定の2026年度末よりも最大で8年遅れることが明らかになりました。淀川左岸線は人工島・夢洲のある大阪市此花区と大阪府門真市を結ぶ高速道路で、2期区間はほとんどトンネルとなる構造です。事業費も当初の1162億円が約2900億円と2.5倍に膨れ上がる見通しです（市の負担は45%）。

何が原因かと言えば、軟弱地盤に対応するための工法変更です。夢洲のある大阪港周辺は埋め立て部分が軟弱だけでなく、海底深く存在する古い「洪積層」が沈下する極めて珍しい地盤なのです。そんなところに大きな建造物を建てること自体、もともと不可能であると専門家の間でも言われていました。関西空港は空港を造るために埋め立てたのに未だに沈んでいます。地盤沈下というものは建物を建てたときにドーンと下がり、それから徐々に下がっていきます。それも均等に下がるのではなく、どちらか一方がゆっくり下がるの

ですから、建物がもたないのです。

大阪IR事業者であるMGMLリゾート・インターナショナルとオリックスが夢洲IRの完成予想図を発表していますが、あくまでもイメージです。あんなバベルの塔みたいなものを夢洲に造れるわけがありません。建設費も1兆円ぐらい使うと言っていますが、おそらく無理でしょう。IRと言っていますが、カジノに軸足を移した事業計画に変わっています。

カジノ来場者はUSJの1.5倍？

大阪府・市、MG&Mとオリックスが国に提出した区域整備計画書をもつ一度読み直してみました。来場者数、収益、納付金などがそれぞれ178%に渡ってバラバラに書かれており、数字一つ拾うのも一苦労でした。自分たちがやろうとしている商売が真つ当なものなら、ちゃんとわかりやすくアピールするはずですが、それが無い。4%にまとめた概要版を見ても売り上げの数字が書か

れていない。事業計画が非常にわかりづらいので、誤解している人もたくさんいるのではないでしょう。IR誘致に賛成した自民党府議の中にも「カジノ客は日本人相手ではなく、中国の富裕層」と話す人がいるくらいですから。

区域整備計画書によると、開業3年目の数字として、IRへの年間来場者は1987万人で、うちカジノ来場者は8割の1610万人。さらにその7割近くにあたる1067万人が国内客です。大阪の人気テーマパークの「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」(USJ)でさえ、年間1400万人(2016年度)が最高です。カジノにそんなたくさんの方が来ますか？ USJの1・5倍ですよ。

ただ、MGMはミラスベガスに10カ所のIRを有している企業です。新型コロナウイルスの感染で急速にオンラインカジノへ移行しているということはわかっている。その上で、日本で儲けるためにはどうすればいいのか考えているはずですよ。

られており、開催期間も決められている。家からわざわざ出向かねばならず、レースが終わったら、買いたくても買えない。それらと比較したときに、IR実施法では「日本人と在日外国人のカジノへの入場は週3回まで」という制限がありますが、3日間しか行けないわけではないのです。3回入るといっていいことですかね。いったん入ってしまったら、24時間ずっと入り浸りになるって思ったらできてしまうのです。

わざわざ夢洲まで行き、入場料6000円を払って中に入ったら、1時間で帰ろうかってなりませんか。ならないですよ。何とかもとを取ろうとズルズル24時間いることになると思いませんか。**お金がなくなっても、オリックスはサラ金部門を持っていきます。**カード部門も、キャッシング部門も持っているのです。パチンコ屋の横にサラ金のATMがあるというだけでも問題があると思っているのですが、それ以上です。

大阪IR株式会社は、来客者を顔認証システム

日本に住む人たちをターゲットにし、お金をどんどん使ってもらおうというビジネスモデルに変わっているのは間違いないと思います。

射幸心あおるスロットマシン

阪南大学の桜田照雄教授も指摘されていますが、大阪のカジノは世界と比べると特殊で、機械式のゲームが非常に多いのです。今のところ、6400台ものスロットマシンを並べる計画になっています。

ギャンブルには「イベント頻度」という数値があり、機械式ゲームが一番高いのです。例えば宝くじは買ってから当たりがわかるまで1カ月くらいかかります。つまり、射幸心があまりあおられないのです。スクラッチ式の宝くじはその場で当たりがわかる。外れたと思ったら、もう1枚買おうかなと思ったら買えるわけです。この速さが人間の射幸心に大きな影響を与えるのです。

競馬、競輪、競艇などは1日のレース数も決め

で管理します。マイナンバーから銀行口座の残高まで、事業者には全部筒抜けになるのです。貸借期間は35年で延長30年の最大65年間ですから、未来には、特殊なメガネをかければ入場者の顔の横に預金残高が出ることになるかもしれません(笑)。どれだけ負けているのか、どれくらい資産を持っているのかまで把握されてしまう可能性もあるのです。

「ギャンブル依存症にならない自信がない」

私の友人にパチンコ大好き人間がいます。「大阪のカジノってどうなん？」と聞かれたので、「スロットマシンが多くなりそうだな」と説明しました。すると友人は、日本のパチスロ(パチンコ型スロットマシン)はアニメやテレビゲームを題材にしたものが多く、アニメ好きの若い人らがせっせとお金を使っているのです。

パチスロの機械は撤去期限が決められています。期限になると新しい台と入れ替えられ、それ

までの台が戻ってくることはありません。でも、それぞれのパチスロ台には固定ファンが付いており、撤去された台を探して、大阪ミナミなどにある高いシートで遊ぶ「違法パチスロ店」に行くというのです。

カジノ問題でやばいなと思うのがこつしたパチスロファンです。僕の友人も「できれば、パチスロはやりたくない」というけれど、「日曜日とか暇なときには手持ち無沙汰で、ついフラッとパチンコ行ってしまっねん」と言い、「面白い台があったら自分から進んで行くやるな」とも話していました。

海外のカジノにあるスロットマシンは単調で、ボタンを押したら勝手に止まる。で、「当たった」「外れた」を繰り返すだけ。その点、日本のパチスロメーカーはすごいですよ。演出がしっかりとっており、音や光で洗脳する。当たるか当たらないかというのも演出されています。

日本のパチンコ産業は斜陽化しています。パチキナパチンコ屋さんで1軒2500台ぐらいです。その2・5倍。大阪IRというと、ステージのエンタメもあって綺麗な空間で、ジャケットを着るなど、ちゃんとした服装で中に入ると、きれいなお姉さんや、かっこいいお兄さんがテーブルでトランプのカードを切ってくれるというイメージになりがちなのですが、おそらくパチンコ屋に入ったようなものになるのではないかと思えます。観光の目玉だった統合型リゾートから「巨大なパチスロ屋」です。そうなれば、大阪IRは成功してしまうのではないかと考えが変わりました。

区域整備計画書では、IRの年間売上が5200億円。大阪市の松井一郎市長が「毎年、大阪府と市に550億円ずつ入ってくるねん。博打で入ってきたお金を福祉に回すんや」などとうそぶいていましたが、大阪府・市への納付金想定額である1100億円ありきではじき出された数字ではないか、と僕は疑っています。年間1100億

ンコ人もどんどん減っているので、パチスロメーカーは海外のカジノに売り込んでいますが、海外では難しいようです。ところが、日本なら一番有利です。日本のアニメとか漫画とかゲームなどを使ったマシンを作ることができたら、恐ろしいものになるのではないかと思います。

パチスロのコイン1枚20円ぐらいです。1回ゲームをやるのに4秒かかるようになってくるそうです。パチンコの玉も1分間に100発以上出ないように規制がかかっているのです。カジノのパチスロはどうなるのか。カジノ管理委員会で決められるようになると思いますが、とにかく1回ゲームをやるのに1秒とか、1回かける金額も1万円とかになったら、「完全に廃人が出る」と友人は言っていました。「ギャンブル依存症にならない自信がない」と。

パチスロ6400台備えた「巨大パチンコ店」

パチスロ6400台といったら、大阪で一番大

円入ってくるためには、カジノは4200億円の儲けがなければならぬと逆算で出しているのではないかと思います。

では、カジノで4200億円もの利益を上げるためには来場者はどれぐらいか。利益というのは客の負け分ですから、客が年間4200億円負けるとしたら1600万人が来ないといけないとの計算になる。1人当たりいくらかというと、2万6250円です。パチンコ好きの友人の話では、20年ぐらい前、めっちゃめちゃパチスロが過激だったとき、1日100万円も出た時代があり、その時は朝から何百人もパチンコ店に並んでいたそうです。全国から1600万人ぐらい集めて1人当たり2万6550円ずつ負けさせるってことは、あながち不可能な数字ではないと思えてきました。

中国人富裕層が見向きもしない理由は？

中国人富裕層を呼んで4200億円巻き上げる